

# 展勝地風土記

Vol.10

平成26年10月24日  
展勝地開園100周年記念事業準備委員会  
問い合わせ／北上市都市整備部都市計画課 ☎72-8279

展勝地開園100周年記念事業準備委員会、100周年に向けた取り組みとして、より多くの市民に展勝地を知っていただくため、展勝地に関するさまざまな情報を紹介しています。本年度3回目は、北上さくらの会事務局長や博物館研究員として、展勝地に深く携わった故熊谷明彦氏の作品を紹介します。  
次回は平成27年1月23日に発行します。

## 『天地の華』

## 熊谷明彦

かれこれ五十年は過ぎてしまった。当時、受験競争はあるにはあったが、高校生には、まだどこか余裕が見られた。

夏の期末試験が始まる前日、だれかが言いだした。

「二夜漬けで詰め込むのは実力ではない。今夜、国見山のお堂に泊って浩然の気を養う」

もつともらしさと、勢いに釣られ、七人ほどが参加することになった。参加したのは中学生の頃からお堂泊りを経験していた常連だった。

国見山山頂のお堂・大悲閣に泊るのに、どこかの許可をとるでもなし、いつでも自由に泊れる施設と思いい込んでいた。

立花の渡辺某の提案で、まだ通ったことがない立花山中の未知のルートから登山に抜け、西谷経由、座禅石から山頂へ登ることになった。

途中でわか雨に遭ったが、明るいうちにお堂に着いた。濡れた衣服を欄干で干しながら、

いつも持参することになっていた陸軍払い下げの毛布に身を包み、回廊から四方の景観を楽しんだ。

毛布を袈裟がけに着ると、一見、ローマのパンテオンに立つ支配者風だと面白かった。

国見山とはよく名付けたもので、ここからの眺望は領有する国分けの相談に恰好だった。

誰かがシーザーになり、アントニウスはと自薦他薦で役者が決まり、見渡す国々を勝手に分割した。

だれかが贖者のアントニウスに聞いた。「クレオパトラは本当に美女だったか」

これをきっかけに世界史は三段飛びで変化し、クレオパトラから楊貴妃、唐の玄宗へ。ついには現実の視界に入る川岸の黒沢尻柵と五郎正任、前九年合戦へと飛躍した。

飛躍どころか、景観がなせる飛翔だったのだろう。合戦話に疲れた頃、西方が晴れ、

そこには夕日による言語を絶する無量寿界が広がった。

西方を望む回廊に座り、皆が黄金世界に溶け込んだ。お堂から西に伸びる日暮峰や座禅石は、古代の修行僧もかくやと彷彿させるのだった。

日が沈み、暮れなずむ和賀の平野に、当時、普及し始めた田んぼの集虫用蛍光灯がポツポツと青い光を放ち、町の電燈が灯されてその数が増えるのを、ただだまっただまま飽きずに眺めたものだった。



焼失前の国見山山頂にあった大悲閣



極楽寺跡に昭和55年無量寿堂が建造された

何故か国見山には、歴史や文化の源泉となる働きが宿っているように思われる。

千年より以前の極楽寺も、天地のこのような働きを知っていた僧によつてのものであつたであろう。さらに遡れば白山信仰があつたはずだ。

北上川東岸から西方への眺望には、天下の景観と言わしめる何かがある。古代仏教の聖域、展勝地の造園、和賀の郷土芸能等々。藤原八弥画伯は、この景観とこの地の歴史、文化、芸能を「天地の華」と表現した。

観光の語源は易経の「国の光を觀る」による。奥州立花の勝は北上河畔に在り。国見山、男山、陣ヶ丘と和賀の一体の眺望は展勝の妙を備え、觀光に応えるに足る天地の華であらう。

すでに一千年余、国見山極楽寺一山の坊舎は、春に桃花咲き、秋は菊



シマカンギク



メノマンネグサ



イチハツ

花で荘厳されていた。往時の修験者は陶淵明を慕い、桃花源の世界を理想郷としていた。桜花は修験の象徴であり、とくにも北上川東河畔の古代白山信仰と深いかわりがあつた。

国見山の岩場に残存する古代文化の象徴植物群、ノモモ、シマカンギク、イチハツ、メノマンネグサは、往時、目に見えないものを知る

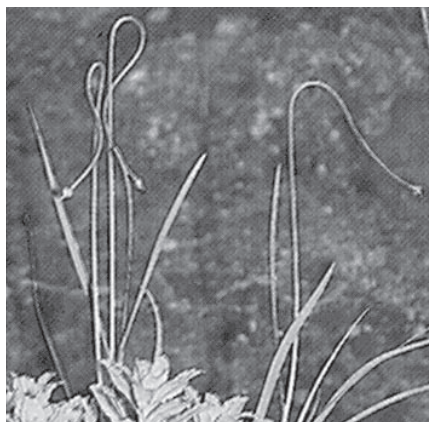
知的精神がこの地にあつたことを伝えてい

内門岡の桃源郷復原、展勝地と桜は、この地の景観と歴史がひとに働きかけ、自ずと表出されたのではなからうか。

先人がここに展勝地を造園した意味の深さを想えば、その偉業を継承せずにはいられないであろう。



ニラ



ミヤマラッキョウ

## 筆者プロフィール

故 熊谷 明彦 (くまがい あきひこ)

1936年生れ。金沢大学薬学部卒。十全堂薬局店主、漢方研究会講師。国見山極楽寺の薬草園の管理も手掛けた。北上市公園委員、北上市立博物館研究員を歴任。設立以来、北上さくらの会事務局長を務め、桜への造詣が深く、並木の樹勢回復に漢方の知識を取り入れ、新たに肥料を開発するなど桜並木の延命に関する研究を行った。陣ヶ丘にある小金井桜の保存にも努め、小金井市との桜交流を実現させた。2002年8月没。

国見山には六〇〇種以上の植物が集中し、植物の宝庫とされています。

山嶺の岩場には西日本を分布域とするシマカンギクやイチハツ、メノマンネグサなどの他、ニラ、ミヤマラッキョウといった薬草が隔離分布しています。そして野生のノモモもありました。

これからはシマカンギクが弘法菊と呼ばれているように信仰に結びついた呪術植物として仏家によってもたらされたと考えられています。